

いま、興味人間

リラックスの仕方がわからない、  
美しきアーティストの悩み。

ニーナ・コトワ

NINA KOTOVA  
チェリスト



コトワはホテルの一家に、チェロを  
抱えてさっそうと現れた。チェロとい  
うのは女性を抱えるとき大きく感じられ  
るものだが、彼女は長身（177センチ  
）のためか楽器が小さく見えた。

「音楽家は楽器と一体化しないとい  
演奏ができないといわれるけど、私の  
場合はまさにこのチェロと一体。だっ  
て楽器を抱えて歩いてるとベットの  
連れているように自然に見えらるらし  
犬が追いかけ回すことが多いよ」

こういって美しい笑顔を見せるコト  
ワだが、このチェロを手に入れるまで  
は長いみちのりを経てきた。旧ソ連時  
代は音楽家が海外で活動するチャンス  
はほとんどなく、コントラバス奏者の  
父親は才能が認められなまま早逝  
彼女はそんな状況から脱したかった。

「音楽院で勉強してもコンクールで優  
勝しても海外で演奏する機会は巡って  
こない。私は外のやまを覗いたかった  
自分の可能性を試したかったんです」  
やがてさまざまな人に助けられドイ  
フとアメリカで勉強することになり、  
エール大学では奨学金も得たがこれだ  
けでは生活できず、モデルの道を選ぶ。

有名ブランドのコレクションに出演し、  
雑誌の表紙を飾り、5年前には東京コ  
レクションに参加するため来日した。  
「2年間モデルを経験しました。生活

費のためだけではなく、自分の楽器を  
買ったからです。モデル時代も  
もちろん練習と作曲は続けていました。  
選曲は自己の意志を貫いて。

道が開けたのは2年前。ある財団が  
1696年製のグアルネリ・ペアと題  
された楽器を貸与してくれた。録音の  
企画が持ち上がったのもそのころだ。

「最初はモデルをしていた若い音楽家  
ということでもホップス調の曲を入れる  
話もあつたんですが、私はあくまでも  
クラシックのチェリスト。何故と断り、  
ようやく納得いく選曲で録音できまし  
た。自作も収録でき、私自身の魂の叫  
びにあふれた仕上がりました」

幼いころからロシア文学を愛する読  
書好きの彼女は、11歳のときに父親の  
書棚で石川啄木の「一握の砂」を見つ  
け、その美しい文体に魅せられていく。  
現在はこれに曲をつけているところだ  
という。CDではチャイコフスキーや  
ラフマニノフらの名曲を演奏し、情感  
豊かなのびやかな美音を披露している  
が、今秋ブラハグ音楽祭のソリス  
トとして来日、ドヴォルザークのチエ  
ロ協奏曲を演奏する。チェロ界に久々  
登場した、強靱な精神力とスタキ性を  
併せもつ大輪の活躍に期待したい。

インタビュー・文：伊藤よし子

ロシア出身。7歳でリサイタルを開き  
作曲もはじめる。15歳でブラハグ国際  
コンクール優勝。19歳でドイツのケ  
ルン音楽院に学び、優秀な成績で  
卒業。奨学金を得て、アメリカのエ  
ール大学に留学。音楽家としての華  
やかなプロフィールに加え、シャネルや  
アルマーニのショーにモデルとして活躍  
した経歴を持つ、才色兼備の美少女  
は、幼い頃、日に12時間も練習して  
いたという努力家。旧ソ連で生まれ  
育って身に付いたという、不屈の精  
神が今も表情に宿っていた。彼女が  
手にするチェロがグアルネリ「ペア」。



99年アメリカでデビューアルバムを発表  
するや、大ヒットを記録。国内盤は7/26  
ユニバーサルミュージックより発売予定。